

## 平成24年度第2回木の文化を具体化する推進委員会 摘録

◆ 日 時：平成25年3月27日（水） 10:00～11:30

◆ 場 所：京都ガーデンパレス「橘」

◆ 出席者：以下参照

区 分	名 前（敬称略）	所 属
委 員	青合 幹夫	京都府森林組合連合会 代表理事専務
	乾 康之助	京都木材協同組合 理事長
	岩井 吉彌	元京都大学大学院農学研究科 教授
	丘 眞奈美	京都ジャーナリズム歴史文化研究所 代表
	神吉 紀世子	京都大学大学院工学研究科 教授
	中井 恵子	株式会社ケイ建築事務所 代表取締役社長
	野間 光輪子	日本ぐらし株式会社 代表取締役
	大北 乙佳	工務店 勤務
	堀井 誠史	京都府産木材認証制度運営協議会 会長
	吉川 哲雄	京の山杣人工房上京区モデル工房「木輪舎」 代表
	吉田 英治	京都市域産材供給協会 会長
事務局	山本担当部長	京都市農林振興室
	納谷課長	京都市農林振興室林業振興課
	河津係長	京都市農林振興室林業振興課
	井上担当	京都市農林振興室林業振興課

欠席

## ◆ 要旨

### 1 挨拶，神吉委員欠席

### 2 木の文化を具体化する取組の進ちょく状況について

#### ➤ 事務局から資料に基づいて説明

- ・ 市民意識調査結果
- ・ イベント等における啓発活動
- ・ スtock情報システムの試行状況について
- ・ 京都市内産木材供給事業の実施
- ・ 木質ペレット需要拡大事業
- ・ 京都市が取り組んでいる主な森づくり
- ・ 平成 25 年度京都市が取り組む主な森づくり，需要拡大対策
- ・ 京都市が率先してとりくむ事業

#### ➤ 主な質疑応答及び意見

- ・ この 1 年間で，使っている材木の使用量は増えているのか？  
→ 京都市の公共建築物への利用は増加傾向にある。
- ・ 一般住宅への利用件数は？  
→ 助成件数は横ばい。新築住宅着工戸数については，京都市内は微減傾向にある。
- ・ アンケート調査の対象者は何人くらいか？  
→ 製材所・流通業者は市内及び府内の約 400 社に送付し，そのうち約 120 社から回答があった。一般の方は，平成の京町家の住宅展示場来場者，大学で勤務されている方を中心に，約 40 名から回答を集めた。
- ・ 作成したのぼりはどれくらい配布したか？  
→ 配布中であり，100ヶ所程度を予定している。
- ・ ペレットボイラーの導入先を教えてください。  
→ 今年度は特別養護老人ホームや，スーパー銭湯等に導入した。木質ペレットを多量に使うボイラーに目標を定めて導入を支援している。導入費用の 3 分の 2 の補助を原則とし，国の補助金と併用すると最大 75% が補助される。
- ・ 木材利用促進法に基づく基本方針は，早く策定してほしいと思うが，京都市内の公共建築物にはみやこ柚木を主体的に使っていくのか。供給がどこまでいけるか。  
→ 国では，国産材を利用するとしており，府は府内産木材，京都市はみやこ柚木を積極的に利用するよう進めている。みやこ柚木の利用を優先していく。  
来年度以降も，京都木材協同組合や京都市域産材供給協会の力をお借りして，供給体制の強化，登録事業体の増加，通常の製材品では使いづらい不燃，防腐への対応も検討したい。
- ・ スtockヤードの問題は前から言っているが，少しずつでも進めて行かないと前に進まない。

→普通ストックヤードは、在庫管理や維持について課題がある。一ヶ所に集中せず小規模で分散してストックができるようにし、全体として量があるように、パソコンなどで見てストック情報が分かるような体制づくりを進めている。

- スtockヤードの問題に時間がかかるのは、業界の問題もあるが、結局、みやこ柚木をストックしておいて売れるのかということがある。
  - 図書館の整備に取り組むということだが、一般市民の方の中には木なら何でも一緒と思っておられる方も多い。もっと広くPRをしていかないといけない。
    - PRの方法が大切。いかに木を使い、みやこ柚木をどういう風にプレゼンテーションできるか、皆さんの手にかかっているのでよろしくお願ひしたい。
  - 子供でもわかるような、視野を広げ幅広く、PRを行うことが必要。宮川町では、木を使ったおしぼり置きでも上品なものができていた。国立博物館のお土産物売りに北山杉を使ったグッズみたいなものを置きませんかという話が東京から出ている。手間がかかるからダメだではいけない。考えて使うことが大切である。
    - そのような考えが大切で視野を広く持って議論できたら良いと思う。
  - いちど大きなブースを見せて、目立たせていったらいいと思う。細かい話は一般の方たちは興味ないだろうと思う。一度大きいのをして。そういう広報の方法を考えても良い。
- パネルひとつとっても、例えば木は体に良いと言われても、何が良いのかわからないので、現在、京都市域産材供給協会に市民にわかりやすいパネルを作成してもらっている。イベントのアイデアを今後もいただけたらと思う。
- 全体的なものが必要だと思う。
    - 全体のマネジメントというかストーリー性をもたせるとかでしょうか。
  - そのとおり。
  - 先日の新聞に京都府が大規模な集成材工場をつくるという記事が掲載されていた。コスト面では京都市内産木材は負ける。集成材の工場もない。大きな需要にむすびつけようと思うと、京都府と一緒に考えてべき。設計者等に使用してもらえる条件は、価格、品質、納期である。
  - 大規模工場では、コスト競争があるので量を製材するために細かな対応はしにくい。量産工場を作るとチップになるものが増え、コストが合わなくなる可能性もある。マーケットの可能性も含め、どの様な工場を作るのかよく考える必要がある。
  - 木を扱える大工さんを育てていくためにも小規模な共同利用ができる製材施設と、グローバルな大規模製材施設の両方が必要ではないか。
  - 京都の場合、昔はひのき、小径木や化粧材等をそれぞれ専門に挽いている製材所があり、住み分けをしていたが、今はなくなってきた。伝統技術をもつ大工を育てるための製材工場に力を入れるのか、大量生産の製材工場にシフトするのか議論しないといけない。京都は一年生の木から100年生の木まで、幅広くそろっている。宮崎な

どほかの地域は、5, 60年の木がかたまっている。条件が違うので、他と同じではいけない。京都には社寺仏閣の大工技術もあるし、特徴を捉えた取組が必要。

- ・ 先ほど、納期とコストとの話があった。公共建築物の案件を落札した業者から相談があるが、納期が短くて難しい話が多い。注文があるかどうかわからないものについてストックと言われてもできない。製品のストックヤードは難しいと思う。
- ・ 入札条件にしっかりみやこ杉木を使うように記載することと発注を早くすることが必要である。
- ・ 分離発注が必要。他の県でも制度的な確立が難しいそうだが、京都から始めて欲しい。

→ 仕様書については、みやこ杉木を仕様書に明記してもらおうよう働きかけている。少しずつだが、仕様書にみやこ杉木の指定をするようになってきている。

現在、取り組んでいる木材利用基本方針の作成により、広く市民の利用に供される公共建築物等における木材利用の拡大に本市が率先して取り組むことが、民間における市内産木材の需要の拡大につながると考えている。

- ・ 環境から始まり色々なことを、京都のブランド性を付加価値として付けていくことが必要である。そのための広報戦略が必要であり伝統産業、観光産業いろいろ考えることが必要である。今度作られる木材利用基本方針はとても重要なものになるかと思う。

→ 積極的な御意見をありがとうございました。皆様の議論を生かしながら今後進めていきたいと思う。

### 3 木の文化を具体化する推進委員会について

➤ 事務局から資料に基づいて説明

- ・委員会のこれまでの経過と目標等
- ・委員会の今後の活動

- ・ この委員会が始まり3年間活動し、あと2年間の活動を行い目標である「森・緑・木のプラットフォーム」を作りあげなければならない。委員さんの任期は1年であり、今後の委員会の運営について御意見がありましたらお願いしたい。
- ・ 木材については日本中で風が吹いている。育てていけないといけない。新しい視点を持つために新しい人材を入れ、各分野専門的な議論を深めていくことが必要かと思う。
- ・ あと2年、このペースだと4回の委員会で議論をまとめていけないといけない。2年後にどの様なものを作っていくかしっかりと考える必要がある。
- ・ 木材利用も大事だが、山の視点を議論することを忘れずに進めて欲しい。
- ・ 確かに長い期間委員をしていたのでマンネリ化している部分もあるかと思うが、これまで積み重ねてきた議論は、大事なことであり、委員の交代は良いことであるが、全ての委員を入れ替えるとこれまでの議論の継続性が問題となるのでは。

- 今日は具体的な話もあり良かったと思う。これからの2年間は具体的なことをするべきであり、そういった活動を期待したいと思う。
- 色々な御意見をいただいた。山の話もしないといけないし、プラットフォームも作っていかないとけない。その具体的な方法等については、また、事務局の方で考えていただく。他に何か御意見はございませんか。  
(特に発言なし)
- 以上で第2回木の文化を具体化する推進委員会を終了します。